

## 搬送ラインおよび分析機器更新に伴う運用変更の効果

◎藤井 知佐子<sup>1)</sup>、三栖 徹也<sup>1)</sup>、早田 峰子<sup>1)</sup>、井上 賢二<sup>1)</sup>、川野 祐幸<sup>1)</sup>  
久留米大学病院<sup>1)</sup>

### 【はじめに】

当院では、2022年5月に生化学・免疫部門で使用している検体搬送ラインおよび分析機器の更新を実施した。

「バックアップ体制および時間外検査体制の再構築」を目標に掲げ、見直しをおこなったので報告する。

### 【検体前処理装置および検体搬送ライン】

MPAM+、CLINILOG V4、STraS(A&T)

### 【搬送ライン接続機器】

Labospect008 α(日立)2 モジュール連結タイプ×2 機。

Cobas8000 e801(ロシュ)×2 機。

LUMIPULSE L2400(富士レビオ)×2 機。

Accuraseed(富士フイルム和光純薬)×1 機。

### 【機器更新後の効果】

更新から約1ヶ月が経過し、検査遅延につながる事例は発生していない。バックアップ体制を整えた機器については、業務時間中に1台ずつ試薬交換などのメンテナンス作業が可能となり、業務効率化に繋がっている。また、時間外検査専用機器として使用していた

Labospect008 α(1モジュール×1機)の廃止および24時間稼働のAccuraseedを搬送ラインに接続することにより機器集約がなされ、業務効率化が図られた。時間外検査では、本検体搬送ラインを使用する事により、開栓作業や検体収納が自動化され、感染防止や作業手順の削減につながっている。さらに、時間外では測定していなかった腫瘍マーカーなどが24時間測定可能となり、時間外の呼び出し検査や未検査検体の保管作業などの負担も軽減した。

### 【まとめ】

今回の機器更新では、ほぼすべての検査についてバックアップ体制を構築することが出来た。今後、機器トラブル等によるダウンタイムは大きく減少するものと期待できる。しかし、ほぼすべての検査を24時間体制としたため、分析機器に搭載されている消耗品や測定する管理試料の使用量増加に伴うコストアップ、また、時間外に勤務するスタッフの教育が今後の課題である。

連絡先：0942-35-3311(内線 6062)

## 当院の COVID-19 に対する感染対策の現状

◎高木 奈穂<sup>1)</sup>、楠原 大輝<sup>1)</sup>、津田 昌和<sup>1)</sup>  
社会医療法人 青洲会 福岡青洲会病院<sup>1)</sup>

《はじめに》

COVID-19感染症に対し、検査体制や、感染対策の取り組みを当院 ICT と共に、経時的に見直しを行ってきた。今回は、当院においての約2年間の検査体制や感染対策の取り組みについて、特に検査室が関わってきたことについて紹介する。

《方法》

- ① 2020年10月より COVID-19 抗原定量検査を開始した。検査に関しては細かいマニュアルを作成し、検査を行う全てのスタッフが同じ工程で進められる様工夫した。
- ② 入院時スクリーニング検査や発熱者外来に対する検査対応の為、土、日祝日の日勤者と夜勤者をそれぞれ1名増員した。
- ③ 中央採血室、および外来処置室では一人の採血毎に、採血台や採血で使用した物品を環境フロスにて清拭した。
- ④ 生理検査室においては、1検査毎に環境フロスにて環境整備を行った。整備後、各部屋の入り口に終わった事

がすぐに分かるよう、マグネットで目印をつけた。

- ⑤ 8時30分、17時00分に全館放送にてアナウンスを行い、各部署、待合室等の環境整備を行った。
- ⑥ 食事は必ず一人で摂るようにした。

《考察・結果》

コロナ禍以前よりは、職員の感染対策意識が高くなった。まだ続くであろう COVID-19 への対策でもあるが、他の感染症や耐性菌対策に役立つことなので、今後も継続していきたい。

連絡先:092-939-0010(代表)

## 新型コロナウイルス感染症検査機器の使用経験と今後の利用について

◎細越 小夏<sup>1)</sup>、稲員 成美<sup>1)</sup>、田中 美穂<sup>1)</sup>、品川 由美子<sup>1)</sup>、小宮 佐恵子<sup>1)</sup>、八木 雄大<sup>1)</sup>、加藤 純子<sup>1)</sup>、生田 幹博<sup>1)</sup>  
福岡大学筑紫病院<sup>1)</sup>

[はじめに]当院では2020年5月より新型コロナウイルスのPCR検査を導入し、2021年8月より免疫測定装置による抗原定量検査を導入した。この2年間の新型コロナウイルス検査に対する当院の取り組みについて、またこれからの利用予定について報告する。[機器]PCR測定装置：FilmArray, GeneXpert, QuantStudio5, geneLEADVIII, SmartGene 抗原定量装置：HISCL[検体採取]当院では6機種で使用する検体は、全てVTM培地にて採取した鼻咽頭ぬぐい液を使用している。提出検体の一本化によって、過って採取することなく、検体採取者の感染リスクを最小限にし、患者負担軽減や検体保管が可能となり、そのメリットは大きい。また、コロナ感染患者専用病棟に勤務する職員の感染対策の為、自身で採取可能な唾液検査の実施も定期的に行ってきた。[測定と報告]測定はPCR検査と抗原定量検査共に24時間対応している。平日日勤帯は1日に3回QuantStudio5やgeneLEADVIIIを使用し、その間、至急検査の依頼はGeneXpert(測定時間50分)、SmartGene(測定時間60分)で対応している。

FilmArrayは主に小児科の呼吸器感染症を対象に測定している。現在HISCLで測定している抗原定量検査は主に有症状者を対象に測定している。陽性時は主治医、感染制御部の医師、看護師へ電話連絡している。[まとめ]当院では新型コロナウイルスの検査において2020年5月よりこれまで、呼吸器内科の医師や感染制御部と連携し、検査体制を積極的に整えてきた。2020年8月からは6機種それぞれの特徴を生かし、時間外もPCR検査に対応し、日勤帯では多数のPCR検査依頼に対応できるようにしていた。そのため、院内クラスター発生時も関係スタッフの感染状態を迅速に把握でき最小限に抑えることができた。現在新型コロナウイルス感染症終息後の運用を模索しているが、検査部以外との連携を図り病院全体での機器の活用を考え、手始めに病理部との共同利用としてAmoyDx肺癌マルチ遺伝子PCRパネルの測定をQuantStudio5で開始した。他部署と連携し、機器の高度な性能を生かして、今後はさらに検査の幅を広げていける可能性があると考えている。連絡先(092)921-1011